

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270500408		
法人名	社会福祉法人 拓心会		
事業所名	グループホーム わらび		
所在地	〒037-0012 青森県五所川原市大字水野尾字懸樋222-5		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年12月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

その人が大切にしている事はともに大事にし、本人の持てる能力を発揮しながら役割を持って生き生きと生活する。又、身体機能低下を予防し運動を促し個別に訓練を行う。自分で出来る事は自分で行う。楽しみを持って生きがいのある毎日を送る。他事業所との交流、外部訪問の受け入れ、家族が気軽に来れる場所として働き掛け、地域との交流を行っている。又、地域の資源である認知症カフェにも積極的に外出したり閉じこもらない生活に心掛けている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

山が眺望できる自然豊かな立地の中にあり、近くには学校や病院、商業施設も充実している。同一敷地内には同法人の通所介護事業所、入居施設があり、コロナ禍の中でも交流を図ることができる。外部との交流行事や外出は控えているが、事業所内で毎月イベントを開催するなど、「今できること」を常に考え、工夫し、利用者の想いに寄り添った支援がされている。事業所には看護師配置があり、日常的に医療と介護の連携が図られている。又、地域の医療機関と連携し、作業療法士が作成したりハビリプログラムを実施したり、歯科医との連携により口腔機能の維持を図るなど、利用者がいつまでも生き生きと暮らせるような取り組みに力を入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を研修に組み入れ職員で意識しケアにあたるように努力している。又、掲示する事で意識付けをしている。	3年前に管理者・職員で見直した「その方の大切にしているもの・ことを重んじます」を理念に掲げ、年度初めの研修や毎月の勉強会で共有している。今年度から毎朝のミーティング時に唱和して更なる共有と理解に努め実践に繋げる取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、行事に参加して頂いたり各イベントの協力依頼などしていたが今年度はコロナの為情報提供ちお畑作りなどでちだって頂いている。	双方のコロナ感染回避の為、以前の様な交流は出来ていないが、コロナ禍であってもできる事をやて行くという意欲は全職員が持っており、地域住民数人の協力を得て花壇・畑作りを行ったり、介護実習やインターンシップの受け入れを実践している。障害者児童ディサービスや4事業所合同で「正月遊び」を計画し、交流を図れるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当在宅介護支援センターと共同して認知症の教室を開催したり認知症サポーター養成講座の協力をしていたがコロナの為自粛傾向である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて利用者の報告を行い地域の意見を聞きサービス向上に活かしている。(今年度は資料のやり取りと意見を頂いている)	今年度は市役所の指導もあり、文書で事業所や利用者の日々の状況や、家族等の意見の抽出を行っている。活字での報告に合わせ、写真を活用した方が様子が解りやすいとの意見から、写真を同封する様にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の状況報告している。又、困難なことがあれば報告相談しながら協力関係を築いている。	毎月の利用者・待機者の状況報告の他、コロナウイルスに関係する内容でのやり取りが多く行われた。困難事例等は、地域包括支援センターを介しての報告がされ、多角的な協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に委員会を設け全体で取り組むとともに施設内研修も行い身体拘束しないケアに取り組んでいる。	高齢者虐待防止と合わせ、3ヶ月毎に法人内での委員会が開催されている他、事業所独自の勉強会を実施し、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族の強い希望が有り、「同意書」のもと行っている利用者が1名いるが、毎月解除に向けた話し合いがされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修、施設内研修にて虐待についてまなび虐待がないように、又発見報告に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会を設けている。又、必要と思われる方には話し合っ活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、納得して頂いてからサイン、捺印いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の利用者とのコミュニケーションの中や面会時、職員会議やカンファレンスのなかで意見をいただき反映させている。	利用者の方々に関しては、日常的なコミュニケーション時に気付ける様にし、ケアに繋げる様になっている。コロナ禍で面会制限中であるが、料金支払い時や毎月の手紙の発送・電話連絡等で意見の抽出に努め、反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日頃からの意見を運営会議や年末の聞き取り時に法人に意見を上げている。	日々の業務の中や、事業所内・法人会議等で意見や提案が挙げられている。年度末(1月)には自己評価を実践しており、面談する機会も設けられている。コロナ禍で利用者を守る為、高性能の加湿器の購入に至った例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援がある。又、資格取得時の手当などを設け職員の向上に働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に研修に参加できるよう計画している。施設内研修、仕事内でも分からない事はアドバイス、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の勉強会に参加したり、認知症フォーラムの手伝いなど各事業所と共同して向上できるよう努力しているが今年度は回数が減っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より聞き取りしたり、ケアマネからの情報をもらう。それを基に状況に応じた対応をし本人が不安にならないようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家での困りごとをよく聞き、家族の要望を聞きながら家族の思いも取り入れながら家族との関係作りもしていく。入所後状態報告をまめにしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は特にコミュニケーション図りなじめるよう配慮し関係作りをしていく。又、新しく知ったこともスタッフ一同で共有し対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を使いながらともに家事を行ってもらうなどして共に暮らしている感覚の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化時や毎月の報告をしている。誕生会や行事には家族もともに参加してもらい同じ時間を過ごせるようにしていたが今年度は報告中心となっている。必要なことは家族に決定してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が困難になっている為タブレット端末を準備している。本人・家族の希望があれば外出したり、宿泊したり、センターにも宿泊して頂いている。家族にも来て頂けるよう依頼している。	各行事等への声掛けも行ったが、双方のコロナウィルス感染回避を1番に考え自粛傾向にある。棟続きの小規模多機能型居宅介護事業所の利用者の方々との交流は継続できており、風除室越しやweb面会も実施する等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席の配慮や共同作業や行事を行う事で助け合い、良好な関係が保てている。又保てるようスタッフが中に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族にも行事案内しボランティアの依頼をしている。今年はコロナの影響で行事案内はできていない。家族からの相談には応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の今までの生活を考慮し本人の希望を取り入れた生活支援に努めている。本人の出来る事は少しでも継続できるよう支援し、やりがいを持てるようにしている。	利用者本人、家族から生活歴や好みのもの等を口頭や毎月の手紙等で把握に努め、アセスメントシートも活用し、本人の出来る事に注目しながら、楽しく過ごして頂けるように検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントから状況を把握したり、家族にも聞き取りする。入所後もコミュニケーションの中から聞き出し把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察に努め、毎日の報告、記録を大事にし情報共有、本人の能力把握に努めている。申し送り、ミーティングなどでも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを尊重し作成している。また、担当者からも日頃の状況を確認し計画に反映させている。	介護計画書の更新は6ヶ月毎であるが、計画作成担当者以外の職員も参加の下、毎月モニタリング・カンファレンスが実施され、現状に即するべく現状検討がされている。状況変化時には、その都度介護計画の見直しや更新がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月カンファレンスを行い介護計画の実施、評価を確認し意見を出し合い、計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望時買だし、ショッピングに外出していたが今は欲しいものを購入介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員と畑作りをしたものを使って料理してもらったり、本人が好きなことをして楽しみが持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った病院を受診している。状況によっては家族・主治医と相談し必要な医療を介護者に説明し受けれるように支援している。	本人・家族の希望に沿っている。経過とともに病状に変化がある際は、かかりつけ医の変更も検討している。基本的には看護師付き添いの下受診しているが、家族が診察券を出してくれる等の協力も得られている。その他、訪問診療の活用もされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の状況報告を看護師にし看護師も健康管理にと止めている。緊急時の体制を整え個々に対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、地域連携室や相談室に情報を提供し、退院時もカンファレンスに出席するなどして関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化に対する方針を伝え、終末期の意向を確認している。又、終末期になった時も確認し医師、看護師、職員と連携し取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に関する説明をし、同意を得ているが、状況に応じ家族の思いや意向に寄り添いながら何度も検討し、本人・家族が納得できる方向性の統一を図り共有し支援しており、看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命法の講習を受講している人もあり緊急時の対応に備えている。(敷地内でのAED設置あり)研修にも救急を取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(日中、夜間)を実施し対応できるように計画している。また、地域住民や消防団との総合訓練も実施している。	日中・夜間想定で3回の訓練を実施している。夜間想定に関しては「地域合同避難訓練」と称され、法人本部や地域住民・消防団の協力が得られている。水害想定は敷地内の3階建てのケアハウスに避難となり、担架での階段利用の訓練も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方のプライドを傷付けないように思いやりを持った声掛けをするように指導している。又、研修会を開催している。	年1回、事業所内でプライバシーに関する勉強会を実施し、プライバシーを損ねない言葉かけに努めている他、日常的なケアの場面で職員間で気になった言動を確認し合っている。特に排泄面に関しては十分な配慮が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を引き出せるようなコミュニケーションを図り都度聞いている。又、希望に対応できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースを把握しながら本人に確認しながら生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見る習慣を持ってもらい本人にも確認してもらっている。できる人には自分でブラシでセットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、下膳など、手伝いや食器洗いを皆で協力しあっている。	基本的な調理は外部委託であり、利用者の方々は盛り付けや、食器の洗い・後片付け等行っている。手作りおやつや行事等には近隣から頂いたマトをスイーツにしたり、お寿司のお取り寄せ等食事を楽しむ工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量の把握に努めている。(摂取量は個人記録に記載)又、積極的に水分補給を促している。食事形態も本人の状況に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、状態に応じて口腔ケアを実施している。又、月一回歯科医師に来てもらい口腔ケアを指導してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認し排泄パターンを把握しながら誘導したり交換している。状況に応じてポータブルトイレ使用など個々に合わせた排泄をしている。	排泄表を活用したパターンの把握や、機能に応じた排泄物品の工夫がされ、失敗しても自尊心を傷つけずトイレで排泄できる取り組みがされている。2つの居室にはトイレが備え付けられ、状況に応じ、ポータブルトイレの使用がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表のチェックし排便コントロールしている。また、運動や水分補給、排便を促す食べ物を摂取しながら排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個別入浴にて対応している。座位、立位が困難な方はリシャワー浴にて対応している。本人の状況に応じてタイミング図りながら対応している。	2ユニット合わせ1週間に6日入浴の稼働がされている為、気分や受診等で入浴の変更が柔軟に行われている。状況に応じ、シャワー浴・清拭・足浴等も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせ就寝、起床、休息が取れるように支援している。眠れない時は起きてお茶を飲んでもらいなど対応している。浮腫みがちな方は定期的に臥床するよう促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬変更時は申し送りし、状態観察を含め全体で把握できるようにしている。また、服薬確認し状態把握に努め申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、季節折々の行事を計画している。又、会話の中で希望聞きながら希望に沿ったケアに努めている。本人の好みのレクやおやつを準備している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出てもらったり、ドライブなど支援している。コロナの為頻回には行えていない。家族の参加は見合わせている。	毎月1回は外出行事を行っていたが、コロナ禍で激減している。近隣の散歩や、病院受診時にコンビニに立ち寄りたりとできる範囲で外出の刺激を感じる事ができる様工夫している。混雑の無い場所を選び紅葉ドライブに出かけた実績もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出の際は、見守り、支援している。希望に応じて少額を本人に持って頂きジュース購入やお菓子の購入を支援している。他は施設管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいときは自由に掛けてもらい、家族からの電話もつないでいる。手紙なども希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気が持てるように居室ごとに家具等を変え、色合いや配置を工夫している。季節感が感じられる様工夫もしている。	コロナ禍で外出や行事等が少なくなり、利用者の方々の五感の刺激になればと職員と共に作成した季節の飾りつけがされ、高機能の空気清浄・加湿器や空間除菌用品が設置され、感染対策に力をいれている。リビングからキッチンでの作業や声が聞こえ、安心できる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチやソファを設置しており、いつでも誰でも座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が持ち込みたいものを持参して頂き、居心地の良い空間になるよう配慮している。又、必要なものは家族に相談し持ってきていただいている。	テレビ・冷蔵庫・筆筒・御位牌等の持ち込みがされている。センサーマット・離床センサーの活用や、馴染みの家具を手すり代わりに使用したり、ベッド・布団等、個々の状態に応じた寝具選びもされ、居心地よく安全に生活できる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前が分かるように表示している。トイレの表示もし分かるようにしている。又、配膳下膳なども出きるようワゴンも準備している。		